

3. 取組み事例（1）対象者別事例

①一般住民（船橋市）

3. 取組み事例

（1）対象者別事例

① 一般住民

市町村名	船 橋 市
------	-------

取組みの具体的内容

講座の基本情報

受講対象者	一般住民
受講人数	20～90名
開催場所	実施法人関連施設、依頼先指定場所 等
開催メイト数	4～8名
ボランティア等	0～4名
使用教材	<ul style="list-style-type: none">■ 認知症サポーター養成講座標準テキスト□ 認知症サポーター養成講座中学生用副読本□ 認知症サポーター養成講座小学生用副読本□ 100万人キャラバンDVD
独自の取組み	介護劇

※■は使用教材。

工夫点・特に気を付けていること

カリキュラムに関しては、定められた内容をよりわかりやすくすることに努めている。

「具体的にどんな場面が想定できるか」「どんな対応をすればよいのか」を介護劇を通じ、一般住民に理解しやすいことを軸に構成している。介護劇の始まりに、テレビドラマのテーマソングを流したり、気軽に楽しめる雰囲気づくり

3. 取組み事例（1）対象者別事例

①一般住民（船橋市）

にも気を配り、一般的な対応として求められるもの、排泄の失敗、うつ状態、もの忘れから妄想へ、徘徊といった場面での対応失敗例と、良いと思われる対応の仕方を演じている。

なかには笑いあり、頷く者ありと、親しみやすい講座になるよう工夫している。

取組みの背景、講座開催のきっかけ

当法人では、地域住民対象に「地域ケアセミナー」を毎年開催しており、その中で「認知症サポーター養成講座」を実施したことがきっかけとなり、年に複数回「認知症サポーター養成講座」を行っている。その後、当法人に複数名在籍している「キャラバン・メイト」に、船橋市包括支援課より実施依頼があり、可能な限り開催を行い普及啓発を行っている。

受講者からの質問、意見等

サポーターとして具体的に何をすればよいのか。

取組み上の課題点、問題点、解決策

一般住民に対し開催する場合、周知方法が限られるため参加する地域が限られてしまう。行政発行の「広報ふなばし」に掲載日時や内容を掲載することで、地域拡大を行った。また、近隣商店等のポスター貼付の依頼を行った。

問い合わせ先

【事務局】

船橋市包括支援課

TEL：047-436-2882 / FAX：047-436-2885

3. 取組み事例（1）対象者別事例

①一般住民（鴨川市）

市町村名	鴨川市
------	-----

取組みの具体的内容

講座の基本情報

受講対象者	一般住民	開催場所	公共施設等
使用教材	■ 認知症サポーター養成講座標準テキスト □ 認知症サポーター養成講座中学生用副読本 □ 認知症サポーター養成講座小学生用副読本 □ 100万人キャラバンDVD		
独自の取組み	寸劇		

※■は使用教材。

工夫点・特に気を付けていること

- 当初は講義形式で講座を行っていたが、講義だけだと「認知症のイメージがつかない・具体的な対応方法を教えてほしい」との質問が出ていたため、講座の内容を考え、誰もが面白くて分かりやすい講座にするために寸劇を取り入れた。
- 本当に簡単なもので、色々な場所で行うため、道具などは使わずに職員のアドリブ、方言や地区の商店名などを入れながら行っている。ただ、面白いだけではなく認知症への対応方法について、悪い例・良い例を交互に行っている。

取組みの背景、講座開催のきっかけ

- 鴨川市では、認知症サポーター養成講座を平成19年より実施している。
- 寸劇といっても本当に簡単なもので、色々な場所で行うので、道具などは使わずに職員のアドリブ、方言や地区の商店名などを入れながら行っている。ただ、面白いだけではなく認知症への対応方法について、悪い例・良い例を交互に行っている。
- 悪い例を最初に行い、受講者に悪かった所を考えてもらい、その後に良い例を行っている。（約10分程度）

3. 取組み事例（1）対象者別事例

①一般住民（鴨川市）

取組みの具体的効果、成果

認知症サポーター養成講座で行ってきた寸劇が分かりやすいと、地区の行事などで依頼される事が増えている。

地区社会福祉協議会や公民館教室などで認知症の対応を含め、介護保険制度について・地域の支えあい・高齢者虐待予防等について、年に数回は地区活動の中で行っている。地区活動の中では地区の方々に参加いただくと、より身近な問題としてとらえてもらえて意識付けとなっている。

認知症サポーター養成講座で始めた事が、地域づくりの一環として役立っているのではと思う。

取組み上の課題点、問題点、解決策

認知症サポーターを聞いてもらいたいのは若年層の方。高齢者は関心が高いが、若者はあまり関心がないのが現状。若年層への働きかけが課題。

問い合わせ先

【事務局】

鴨川市健康推進課福祉総合相談センター

TEL：04-7093-1200 / FAX：04-7093-7115

3. 取組み事例（1）対象者別事例

①一般住民（佐倉市）

市町村名	佐倉市
------	-----

取組みの具体的内容

講座の基本情報

受講対象者	一般住民、小学生、中学生、等		
受講人数	<佐倉市認知症サポーター養成講座>		
	47名	志津南地区社協福祉委員（H21.12.12）	
	107名/88名	ボランティア学習・交流会 （H23.5.22/H24.2.5）	
	416名	認知症ケア講演会（H24.1.29）	
	41名	志津南地区社協住民福祉懇談会（H24.3.18）	
	85名 （学童保育）	夏休み子ども認知症サポーター養成講座 （H24.8.20）	
	80名 （小学生親子）	夏休み親子認知症サポーター養成講座 （H24.8.21）	
	17名 （中学生親子）	夏休み親子認知症サポーター養成講座 （H24.8.21）	
	<公益社団法人認知症の人と家族の会千葉県支部との協力事業>		
	約400名	世界アルツハイマーデー記念講演会 （H24.10.25）	
	<その他キャラバン・メイトとしての活動>		
	146名	中学生認知症サポーター養成講座（1年生） （H24.11.29）	
	121名	小学生認知症サポーター養成講座（4年生） （H25.1.18）	
	187名	一般住民（H25.2.7）	
講座開催時間	15～30分 （寸劇として）	開催場所	小・中学校、佐倉市民音楽ホール等
開催メイト数	4名 （劇団南座メンバー）	実施企画	志津南地区社会福祉協議会 /佐倉市

3. 取組み事例（1）対象者別事例

①一般住民（佐倉市）

ボランティア等	志津南地区社会福祉協議会の福祉委員
使用教材	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座標準テキスト <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座中学生用副読本 <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座小学生用副読本 <input type="checkbox"/> 100万人キャラバンDVD
独自の取組み	寸劇

※■は使用教材。

カリキュラム

（寸劇）

- 計4作のレパートリーを持つ。

（1）「認知症とは??」

（2）「認知症ってなあに～地域で支えあおう～」

（3）「認知症があってもこの町で～地域で支えあおう～」

（4）「おうちはどこですか？」

- 認知症の方の日常生活を話題にし、多くの人にわかりやすく理解してもらえよう演じている。

※台本は別添。

工夫点・特に気を付けていること

認知症の方の日常生活を話題にし、多くの人にわかりやすく理解してもらえよう演じている。

取組みの背景、講座開催のきっかけ

- 認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、地域の住民の方々の正しい理解が不可欠である。また、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、その為にも認知症を正しく理解して、認知症の方や家族を地域ぐるみで、見守る地域にしていきたいと思っている。
- 志津南地区社会福祉協議会の受け持ち地域は、高齢者が他地区と比べ多い地域。しかも、急速に高齢化が進んできている状態。この現状で何かできないかと検討の結果、平成21年12月の福祉委員会で、寸劇「認知症とは…」を認知症サポーター養成講座との位置づけで披露した。
- 平成22年9月佐倉市主催の認知症講演会に出演依頼があり、これを機会に劇団南座を志津南地区社会福祉協議会の研修部会の事業として立ち上げました。

3. 取組み事例（1）対象者別事例

①一般住民（佐倉市）

取組みの具体的効果、成果

ボランティアの学習会や市主催の認知症啓発講演会、認知症サポーター養成講座において、認知症の早期発見や相談先の紹介、認知症の人への対応の仕方などを、市民にわかりやすく啓発し、「認知症にやさしい佐倉」の推進に大きく貢献したとして、平成24年3月21日に、佐倉市長から感謝状を授与された。

取組み上の課題点、問題点、解決策

市内の全小中学校を対象に、子どもたちにも認知症の啓発を行いたいが、学校長の理解をどう進めるかが課題。

問い合わせ先

【事務局】

佐倉市高齢者福祉課包括支援班

TEL：043-484-6138 / FAX：043-486-2503

【劇団南座へのお問い合わせ】

佐倉市志津南地区社会福祉協議会

TEL：043-460-1782